

2020 年度支部長報告 2020 年度支部長 慶野 正司

コロナ騒動による困惑のなかスタートした 2020 年度。就任直後に感染回避のための支部活動「ガイドライン」の作成、またオンラインアカウントの取得とノウハウの共有を始め、一年を通してコロナ禍における活動のあり方を模索して参りました。今では一足飛びに進んだオンライン化のメリットも経験し今後の活動形態を見据えながら活動しております。

2020 年度の支部活動テーマは以下の通りです。

1. JIA の社会的プレゼンスの拡充
2. 会員サービスの拡充
3. 関連団体等との連携促進
4. 本部活動との連携強化
5. 地域会活動・委員会活動の活性と連携推進
6. 持続可能な会の運営推進

でスタートしコロナ禍により次のテーマ

7. With コロナ社会における JIA 活動のあり方の検討

を優先度高く追加設定いたしました。

活動状況は、支部内の 23 地域会、17 委員会、12 部会、2 支部事業の会議体においてコロナ禍で中止・延期を余儀なくされた事業も数ある中、万全な感染防止対策を図り、またオンライン開催などの工夫しながら活動して参りました。特に支部内の情報共有、会員サービスや社会発信に注力し、各会議体における意欲的な活動は年度計画の通りとはいかないまでも数々の成果をあげて参りました。

支部全体の活動においては、支部の重要な役割として各活動のプラットフォームの整備であるとする方針から常任幹事会内にテーマ毎の WG を組織し具体的に展開いたしました。

その一つに、委員会・地域会の情報共有・連携強化を目的に「委員長・地域サミット合同会議」や「地域サミット」を開催し支部活動全般や各会議体の課題について共有いたしました。また初の試みとして各委員会活動との相互理解を深めることを目的としオンラインにより 16 委員会を訪問する「委員会懇談会」を実施して参りました。これらは効果的な活動展開に向けて貴重な機会となり今後の支部運営に活かして参ります。

また、やはり初の試みとして交流委員会主催により 3 回開催した「法人協力会員・オンライン技術セミナー」は、正会員、法人協力会員共に win - win の関係づくりが目的であり継続していく期待を高めました。

そして、特に本年度は本部事業で行った困窮学生支援事業により多くの学生会員が誕生したことを契機に今まで希薄な関係であった学生会員へのフォローを強化いたしました。学生にフォーカスした活動として入会手続きの簡素化も図り、拡大を目指す学生会員への積極的な情報提供、且つ意識の高い学生の主体的活動を促す組織づくりに着手いたしました。建築家職能の将来を担う若手や学生会員の活性化は不可欠です。JIA の未来を託すためにも学生会員へのコミットを今後も重点課題として発展させて参ります。

本年度は如何に活動するかなど支部運営に注力した一年でしたが、今後も引き続きこの激動の一年の経験を活かし新しい時代に呼応した新しい JIA 活動のあり方を模索して参ります。